

犯罪をなくすために一人一人が

東海大学付属浦安高等学校中等部1年 山田 愛佳理

私は先日、中等部の風紀委員として浦安市保護司連絡協議会の「社会を明るくする運動の街頭キャンペーン」に参加しました。初めて街頭に立ち、知らない人に声をかけることは緊張しましたが、啓発用のティッシュを配布しながら、安全・安心な地域社会への協力をお願いしたところ、快く受け取ってくださる方がたくさんいてとてもうれしかったです。

この活動は青少年の非行防止と更生保護事業を目的としていますが、あれだけ沢山の人の目があり、声かけを行い人々が交流をしている状況では、決して犯罪は起きないだろうなあ。と感じました。そして、この状況を毎日作るのは難しいけれど、ティッシュ配りの時のように、知らない人でも困っている人がいたらお互い声をかけ合えるような雰囲気がある街全体にあれば、犯罪は起きにくいのだろうとも思いました。

犯罪を犯す心理というのは何かしらの不安やストレス、社会に対する不信感が増して、その結果取った行為が犯罪や非行になるのではないかと思います。しかし、そういう心理には決して急にはなるわけではないとも思います。そうになってしまう人を一人でも減らすには、一人一人が日々の生活の中で人と人とのつながりを大切にして積み重ねていくことが重要だと思いました。

私はこの四月に中学生になりました。新しい学校、新しい先生、新しい友達で初めは不安な気持ちでいっぱいでした。

引っ込み思案な私はなかなか周りのクラスメイトに話かけることができませんでした。そして、同じような不安をみんなも感じているようでクラスはピリピリとした嫌な緊張感でいっぱいでした。

しかし、そのうちに、おしゃべりな人、面白い人、運動が得意な

人、絵が上手な人など、だんだんとみんなのキャラクターが見えてきて仲良く交流するようになり、私の不安も徐々になくなり毎日楽しく学校に通えるようになりました。

しかし、ある男子がいつも一人でいるのが気になりはじめました。私には、その子が誰かと話したいのだけれど上手く話しかけられないようにも見えました。

また、他のクラスメイトからからかわれているようにも見えて余計に心配になりました。だから私は勇気を振り絞ってその男の子に積極的に話かけて側にいるようにしました。

すると男の子は思ったよりおしゃべりで楽しい男の子でした。「なんだ、こんなに話しやすく楽しい子ならもっと早く話かければよかった」と思いました。

一方、その男の子をからかっていた男の子に対しては、はじめはどうしてそんなことをするんだろう、という疑問と嫌な気持ちでいっぱいでした。しかし、その子ともよくよく話をしてみると、真面目な頑張り屋なことがわかりました。ただ、仲良くなりたかっただけなのに上手く言えなかっただけだとわかり、そこからどんどん仲良くなりました。今ではその2人と私はとても良い関係になりました。初めの頃がウソのようです。

私は見て見ぬふりをせず、2人に話しかけて本当によかったと思いました。こんな小さな出来事の繰り返しがお互いの心に自信がつき豊かになっていくのだと思いました。お互いがお互いの個性を認めて尊重しあえたら、いじめは起きないし、いじめが起きなければ将来的に社会に不満をもつような人もいなくなり、犯罪や非行も減らせると思います。

私一人ではこんな大きな問題を解決することはできません。ですが、一人一人がこの問題について考え、協力すれば解決できると私は思います。ゆえに私はその一員として人とのつながりを大切にしている人がいたら、寄り添ってあげられる存在になりたいと思

います。